

I 令和4年度 富士宮市立北山小学校 学校経営方針



1 学校経営目標

笑顔と信頼と誇りのある学校

○私たちは、北山小学校の子供たちが笑顔で通える学校にします。

笑顔のためには、まず、学校が楽しいところでなければなりません。

そのために、分かりやすい授業、友達との学び合い、たくさんの体験活動、盛り上がる学校行事、一人一人が活躍できる場などを私たちは提供します。

次に、学校は安全・安心な場所でなければなりません。

子供たちが周りの人にいたずらに傷つけられることがないように、集団を育て、困ったことがあったらすぐに教師に相談できるような体制をつくります。いじめや不登校のない学校にします。他人の笑顔を奪うような行為に対して厳しく指導もします。

もちろん、笑顔のために毎日をおもしろおかしく生きていこうということでは決してありません。たとえば、アスリートたちがやりきったときに見せる笑顔は特に美しく感じるのはなぜでしょう。その笑顔には、歯を食いしばって、つらいことにもくじけずに耐え抜いた努力があるからこそ、輝きを感じるのです。できなかったことに何度も何度も挑戦して、ついに成功させたとき、日常の笑顔とは違う心の中から沸きあがってくる最高の笑顔になります。私たちは、子供たちがそんな笑顔になれるような負荷をかけていきます。乗り越えられるハードルの高さは一

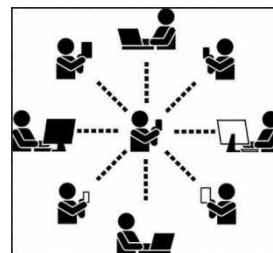


人一人違うと理解し、個別に支援していきます。そして、そんな成功体験を積み重ねて成長させていきます。

○私たちは、保護者や地域から信頼される学校にします。

「学校のことは先生に任せておけば間違いない。」そう思ってもらえる頼りがいのある教職員集団を目指します。

子供を指導するのが教師の仕事ですが、教師の価値観を押しつけるのではなく、子供を理解し、保護者の思いを理解し、適切な指導を行います。また、家庭との連絡を密にして、家庭と学校が共同して子供を育てていきます。地域の方々にも子供の育成に協力していただくよう、絶えず学校の情報を発信していきます。



そして、期待を裏切らないように、教職員は不祥事を起こしません。

○私たちは、子供たち、保護者や地域の皆さんが誇れる学校にします。

北山小学校をみんなが自慢できる学校にします。たとえば、令和3年度は、新体力テスト最優秀賞を受賞したこと、コロナ休校でも、オンライン授業を実施してICT活用先進校の実力を発揮したこと、職員が教育実践論文で受賞したことなど、新聞で紹介されました。地域の方は、新聞に北山小学校が出ることを心から喜んで下さるので、私たちは、他校と違う魅力をたくさん創造していきます。



2 学校教育目標

自ら学び、人との関わりを大切にして、未来を切り拓く子

目指す子供像 **「かがやく北山っ子」**

「自立」自ら学ぶ力

「共生」自ら関わる力

「創造」自ら高める力

「北山っ子」は、毎朝どの子も生き生きとしたあいさつをしてくれます。授業にも落ち着いて取り組み、自信を持って自分の考えを発言できる子もたくさんいます。他人に迷惑を掛けたり、傷つけたりすることもほとんどありません。コロナ禍で制約が多い中でも、マスク着用や三密回避、黙食などのルールを守って生活しています。そんな子供たちですが、課題がないわけではありません。

1つめは、高学年になるに従って、学習が定着しにくくなっているようです。授業は真面目に一生懸命でも、力が身に付くまでには至っていないということです。基礎・基

本を反復練習するような取組が必要だと考えられます。

2つめは、読解力（理解力）を伸ばすことです。物語を読んだけど、主題を正しく読み取れていなかったり、話は聞いているけれど、理解できていなかったりすることが多くあります。それでは、読書しても面白くないし、教科書を読むのも嫌になります。それが、学習の伸びを妨げていると考えられます。そこで、読む力を育てる方法を考えて取り組んでいきます。

3つめは、忘れ物が多いことです。これは、北山小学校に限らず、子供はある時期、忘れるものだと思います。まだ低学年の子供は準備を親に依存しているから、忘れることは少ないと思います。しかし、高学年になると自分で準備をするようになるので、親の手から離れ始めたばかりの端境期の子供が、忘れ物をしがちになります。私たちの「忘れ物をしない」、「宿題を必ずやる」という指導は、子供たちに「自分のことは自分でやる」という自立を促す指導です。

そこで、令和4年度の北山小学校は、「自ら学び、人との関わりを大切にして、未来を切り拓く子」としました。短い言葉で言えば、「自立」「協働」「創造」です。

まずは、自分の力で課題を解決できる力を身に付けます（自立）。しかし、自分の力だけでは解決できない困難な課題もあります。そんな時は、他の人と力を合わせる必要があります（協働）。そうして身に付けた力を活用して、先が見通せない時代を切り拓いて、よりよい未来を創ってほしいと思います（創造）。

（１）「自立」自ら学ぶ力・・・自分の力で課題を解決する子

○「読解力・語彙力」を育成します。

- ・学力アップタイムを設定します。
- ・音読を徹底的に鍛えます。
- ・読書の量と質を向上させます。

朝活動の10分間を、基礎・基本を定着させるための学力アップタイム（火・水・木）と、読書量を増やすための読書タイム（月・金）とします。また、図書館の利用回数を増やし、月2回のひばり号でも本をたくさん借りるようにします。読み聞かせボランティアに協力していただき、本の楽しさを感じられるようにします。

音読が雑にならないように、音読アプリで管理するにしたり、個人の



力に合わせて、教科書やデジタル教科書を選択して、多様な方法で音読できるように配慮します。その成果を発表する場を設定するなどして、音読に対する意欲を持たせていきます。

○「問いを持ち追究する力」を育成します。

- ・きたやま学習を充実させます。
- ・「なぜ」「どうしたら」を考える学習課題を設定します。

毎日の授業の学習課題は、「なぜ～なのだろう?」「どうしたら・・・できるだろう?」などと設定し、問題解決学習を進めていくことを基本にします。この学習方法が身に付けば、日常生活の中で感じる「?」を自分の力で追究できるようになります。この追究力を伸ばすことができるのが、「きたやま学習」です。教科書のない総合的な学習の時間は、自由に知りたい疑問を調べることができます。ここで、本やインターネットに頼る調べ方だけでなく、多様な追究方法を身に付けることで、その後の生き方が変わると言っても過言ではないと思います。



○「自学自習力」を育成します。

- ・誰一人取り残さないよう個別に支援します。
- ・家庭学習の習慣の定着を目指します。
- ・授業過程を転換し、家庭学習を授業で生かします。

令和4年度の北山小は、富士宮市アクションプランから、「誰一人取り残さない特別支援教育の充実」をテーマに実践します。個別最適な学びを実現するために、一人一人に合った課題や追究方法を支援します。そして、「一人でもできる」という学習の自立をめざしていきます。

家庭学習は、読み・書き・計算の基本的なものだけでなく、やりがいを感じる課題に取り組んでほしいと考えています。たとえば、家で考えたこと、準備したことが生きるような授業を教師が構想します。授業で活躍できた喜びが、さらなる頑張りにつながっていきます。例えば、一時間の授業の流れを改革します。これまでは、導入で教師が問題を提示し、子供が今日の学習課題を設定しました。そして、一人学びをした後で、全体で話合い、追究して深めていきました。最後に、一時間のまとめや振り返りをして授業は、完結していました。これを、前の時間の最後に課題設定を行い、家庭学習で一人学びを行うようにします。次の授業で自分の意見を言えるようにがんばって「?」を自力で解決していきます。翌日の授業では、いきなり全体での話合いから入ります。そして、まとめや振り返り

をした後で、次の問題に挑戦し、新たな課題をつくって終わります。そして、家庭で自力解決を試みる。このようなサイクルに転換することで、家庭学習への取組が変わると思います。子供に力を付けるための授業や家庭学習を研究していきます。

○「ICT活用力」を育成します。

- ・低学年…操作できる
- ・中学年…考えを入力できる
- ・高学年…工夫できる

令和3年度から、GIGAスクール構想実現のため配付された一人一台パソコンを活用した授業に取り組んできました。子供たちは、あつと言う間に操作に慣れ、パソコンが文



房具のように使用される日も遠くないと感じています。低学年ではパソコンの操作に慣れる、中学年ではタイピングして自分の考えを入力できる、高学年では見栄えよく表現できることを目標にしていきます。



(2)「共生」自ら関わる力・・・他者と協働して課題を解決する力

○「多様性」を育成します。

- ・支援学級と交流します。
- ・縦割り班活動で異学年交流をします。
- ・考え議論する道徳を実践します。

私たちの回りにはいろいろな考え方や立場の人がいることを、日常生活の中で学んでいきます。縦割り活動をすることで、自分より年齢が下の子への優しさが芽生え、支援学級の子供と交流することで、他人の困難さを共感できるようになります。もちろん、LGBTQも尊重します。「みんなちがってみんないい」と思える環境をつくっていきます。



○「協働性」を育成します。

- ・協力がなければ成功しない行事を設定します。
- ・話し合い活動で折り合いの付け方を学びます。

コロナ禍で学校行事も制限されていますが、子供たちが協力することのよさを学ぶためには、物語よりも実体験です。そこで、協力を必要とする行事を重視します。例えば、運動会、修学旅行、林間学校、フェスタ北山などが考えられます。他にも、クラスごとに協力を必要とするイベントを企画して、協力したから成功したとか、協力したらこんなことができたという達成感を味わってほしいと思います。

その過程で、何度か話し合いをしたいと思います。意見が食い違ったとき、対立したとき、そのまま平行線でいくのではなく、折り合いを付けることを学んでいきます。

○「コミュニケーション力」を育成します。

- ・外国語の授業で Small Talk を実践します。
- ・山宮小とのオンライン交流をします。

今は、日本語のコミュニケーション力にとどまらず、英語での会話する力も求められています。大人は、頭で考えてしっかりした文法で話そうとするあまり、会話に苦手意識が生まれます。英語の授業で、Small Talk（おしゃべり、世間話）を繰り返し行うことで、抵抗感をなくし、コミュニケーション力の向上につながるようです。国語の授業で、「日本語で世間話をしよう」という時間はなかったので、この Small Talk という手法を応用する価値がありそうです。

また、固定されたメンバーでは安心して話せても、環境が変わると緊張して話せないということはよくあります。そこで、将来北山中で級友になるであろう、山宮小学校の子供たちと、オンライン交流を行っていきます。馴染みのない人たちにも堂々と意見が言えるように場を設定していきます。それを積み重ねていくうちに、山宮小学校の子供たちとも仲間になり、北山中学校での生活が円滑に始められるようになると期待しています。



○「グローバルな視野」を育成します。

- ・SDGsに取り組む必要性を学びます。
- ・エコ活動に取り組みます。

ウクライナとロシアの戦争が始まり、日本にとっても他人事ではない世界情勢になりつつあります。他にも、環境問題など地球規模で災害が発生しています。自分たちのことでまだ精一杯の子供たちですが、SDGsの取組を知ること、視野を広げ、世界の課題に関心を持ち、自分事として考えられるようになってくれたらと思います。一人一人の力は小さいけれど、みんなの力を合わせれば、世界が変わるかも知れない、そんな可能性が感じられる取組を考えていきます。

北山から世界に影響を与える偉大な人物を輩出することができたらよいと思います。



(3)「創造」自ら高める力・・・よりよい未来を創り出す子

- 「主体性」を育成します。
 - ・子供が企画・運営するイベントを設定します。
- 「創造性」を育成する。
 - ・工夫した面白い係活動や委員会活動にします。
 - ・作品展示を工夫して創作意欲をかき立てます。
- 「粘り強さ」を育成する。
 - ・めあてや目標を設定して取り組み、達成度を自己評価します。
 - ・新体力テスト2年連続1位を目指します。

「主体性」「創造性」「粘り強さ」を育てるのは、とても難しいことです。繰り返し練習して身に付くものでもないように思います。例えば、子供のやりたいようにやらせてみて、それを価値付けてあげることで、「楽しかった。」「またやってみたい。」「今度はこうしよう。」「あきらめないぞ。」という気持ちになると思います。宿題をなしにして、「やりたいことをとことんやる日」があったら、子供はどんなことをするでしょう。一日中、絵を描いたり、読書したり、料理をつくったり、レゴを組み立てたり、父親と釣りをしたり、キャンプをしたり、サッカーの練習をしたり、好きなことなら主体的になるし、工夫もする、何時間でも根気強く集中するのではないのでしょうか。しかし、残念ながら今はまだ、一日中、ゲームをする、YouTubeを見るという子ばかりになってしまいそうです。できれば、人がつくったもので楽しむのではなく、クリエイティブなことに取り組んでほしいのです。ゲームをつくる、映像編集をして動画をつくる側になってほしいと思っています。

まずは、児童会活動、委員会活動、係活動などから創意工夫してユニークな活動をしていきます。お楽しみ会も、入念な計画の基に行えば、主体性や創造性を伸ばす場になります。

新体力テスト市内1位を受賞したのは、他校がコロナ禍で運動できなかったための幸運だったかもしれませんが、連続受賞を目標に掲げて、運動能力を高めてほしいです。



○「メタ認知能力」を育成する。

- ・振り返り時間を確保します。
- ・できるようになったことを評価します。
- ・キャリアパスポートへの積み上げ

「メタ認知」とは、自分を客観的に捉えることです。

自己肯定感が低く「どうせ自分なんて」と言う。不公平感が強く「自分ばかり」と考える。北山中学校の課題だそうです。小学校では、自分の成長をしっかり把握する時間を設定して、自信を付けさせていきます。授業や行事で振り返りをすることを大切に、教師も伸びた力を認めていきます。

